

建設産業おでかけ委員会会議録

平成 26 年 1 月 27 日 (月)

午後 2 時 00 分 開会

【小出義一委員長と竹内元章氏から挨拶の後、参加者の自己紹介を行う】

○小出委員長

それでは進めさせていただきます。冒頭に、これまで委員会の中で話し合われたこと、そして J R 半田駅前周辺で行われている事業等をまとめていますので、説明させていただいて、そこから話をしていきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。説明は岩田副委員長からさせていただきます。

○岩田玲子副委員長

【資料に基づき説明】

○小出義一委員長

今まで市議会で話し合われたことや J R 半田駅前周辺の事業等実態を説明させていただきました。これをベースにして話を進めていきたいと思っております。前段として入口の話ですが、まず現状の街並みについてみなさんがどのように感じているかを一人一人伺ってそこから話を進めたいと思っております。

○竹内元章氏

実際私はカクサンという布団屋をやっているのですが、自分が生まれた昭和 40 年台と比べると車の通りは多いかもしれませんが、人の通りが非常に少なくなってしまい、街も寂れてしまっています。実際に商店街をやっているも昔は 100 数十店舗あったと聞きますが、今は 54 店舗くらいにまで減ってきています。ざっと半分以下になってしまっています。個々にいろんな理由があるとしても、全体的に店舗の後継者不足があると思っております。そうなるとうちでも街に活気がなくなってきます。商店があるとそこに人が寄ってきて賑わいができるのですが、商店が無くなりシャッター通りになり、人も寄らない寂しい街になってしまったということだと思います。実際に中区の住人も以前より少なくなってきましたし、住んでいる人にとっても何となく沈んだような街になっていると感じています。特に言われるのが東京から来た取引先の人に J R 半田駅に降りたときに、きっと半田市の中心はここだろうと思ってくるので、一体どういう街なのか、ということです。また、名鉄の駅からここまで来るときにガード下をくぐらなければならないが、ここを歩いていいのかいけないのか、どうやってこればいいのかよくわからない、という意見をいただきます。この街自体が便利で安心して住みやすくなれば、おのずとここに住みたいという人が増え、ここで商売をしたいという人が増える。そんな街づくりをぜひしたいと考えています。現状としては非常にさびしいと思っております。

○竹本久郎氏

今言われたように、確かにさびしいと思っております。土日にパトロールをしているのですが、パトロールをしていても人がいないという状況です。車社会になったこともあり、買い物も遠くてもいいから安いものを買うに行くようになったと思っております。その中で人が住みやすい雰囲気づくり、若い人が帰ってくるような街づくりをしないといけないと思っております。予算の

話もあるでしょうが、施設をそろえることも一つだと思います。観光だけで賑わいを取り戻すのは難しい部分もあると思います。

○杉本伸行氏

ここで育ってきた年代から見れば寂しい街になってしまいました。だんだん新しい方が住みにくくなり、人が出ていっている。ご年配ばかりになっている。新しい活性化となるようなものがない。理由はいろいろあると思いますが、やはり中心となる商店街がさみしいこともあると思います。

○平井 悟氏

私は半田の出身ではございません。昭和 47 年から新川町に住んでいます。一番驚いたのは結婚してまもなく水害に遭いました。付近の人は片付けにも慣れていました。床上浸水が 3 回、床下浸水が 5、6 回ありました。名鉄知多半田駅前の道路から川のように水が流れてきたことが記憶にあります。最近では東海集中豪雨を最後にそれ以降はないのですが、そういうことが整っているのか、ということもあります。また、この辺りは戦災に遭っていないのか、私の家も含め古い建物が多いです。少子高齢化時代で年寄りが亡くなると誰もいなくなり、空家も多いです。また、その空家を壊さない、倒れそうになっているという状況もあります。夜も日曜は歩いても猫が歩いているくらいで人がいません。これをどのように立て直していくのかというのは相当難しい問題と感じます。

○内田榮一氏

さびれたとかさみしいということは百も承知だと思います。なぜこうなっているかということの原因認識をしてから街づくりをしていかないと恰好だけつけてもまた同じことになってしまうと思います。一番の原因は流通の変化だと思います。そういう時代認識を持たなければならないと思います。スーパーやコンビニの進出により一般の商店というのは、よほど特殊なものか技術を扱っていない限り営業ができなくなっている状況です。商店の数は半減しており実質的に営業しているところでいうと 3 分の 1 以下になっているのではないのでしょうか。そういうことも踏まえ原因を考えることは非常に重要なことで、スーパーやコンビニに対抗できる商店というのはでてこない。そういうことを想定して商店街が復活すること夢を見ないほうがいい。マイナスの話をするわけではないけれども 1 件 1 件で頑張るしかないですが、頑張るといってもこれだけ流通事情が変わって消費構造も変わっていると、どうしていいのかわからないというのが商店の悩みです。これから街づくりをするうえで、賑わいを取り戻そうということであれば住む人を増やすことしかないです。これは大事なことだと思います。今、商店街として日本中で残っているのは大都市の中で大きなスーパーが入る余地のないところ。人口が多く、交通機関が便利でその駅に降りる人がたくさんいて、人が通り。そういうところ。例えば東京でいうと武蔵小山ですと商店がびっしりあります。そういうところと我々の街とは全然違う。もし賑わいを取り戻したいと思ったならば、やはり交通機関も便利にして住む人も増やさないといけない。老人ばかりになってしまいましたね。そして老人が買い物に行く場所もなくなってしまった。こんなことは考えられなかったけれども。そういう認識を十分したうえで考える必要がある。ただこれからは道を造ればいい、きれいにすればいいというものではなく、真剣に人が住む街をつくって、楽しく暮

らせるためにはどうしたらいいのか基本的なところをしっかりと押さえて計画を立てないといけない。その為には地元の人たちが知恵を出さないといけない。名鉄駅前区画整理について地元の人の意見がもうちょっとでなければいけなかったなと感じています。やはり地元の方は強い意志を持って取り組まないといけないと考えています。いろいろ経験をしておりますのでマイナスの意見を申し上げましたが、半田を愛する気持ちは変わりません。観光資源もミツカンさんが2年ストップしていますが、2年後にはたくさん観光客が来てくれると思います。半田に住む人を増やすと同時によそから人が来てくれる街にする。これも非常に大事なことです。その為の方策も考えていきたいと思っています。

○内田哲也氏

私は25年前に名古屋から半田に来ました。その頃は商店街にいろんな店があり、電気屋、酒屋、などよそに行かなくても日常必要なものがこの商店街で全部そろったのですが、お年を召して商売を辞める方など一つ抜け、二つ抜けと減っていき現状の姿になったと思います。ただ最近クラ de クラというイベントを若い人たちが末広さんや銀行の駐車場をお借りしてやった時に1,000人くらいの方がこの街に集まってきました。去年ですと、住みます芸人のシンポジウムが8か月間居たのですが、ライブなどがありますと名古屋から電車でお客さんが来てくれていました。何かをやるときに便利な場所だと思います。飲み会をやろう、となった時も車はだめですから、便利なお客さんが来てくれる、絶好の場所かなと思います。そこを生かすにはどうしたらいいのかというのが難しいところだと思います。全く人が来ない場所ではないですので知恵を絞って人を集める街にしたいと思っています。

○堀場宗雄氏

私は豊場屋をやっています。個人的な意見ですが、ミツカンさんの工事で土日に全然人が来なくて、どうにか早く酢の里さんができてほしいと思います。また、住民が増えることもやってもらえたらと思います。

○吉村比富氏

私は大府に住んでいますが、一時ちょっと動いたりもしましたが昭和48年から半田信用金庫の本店にいます。入ったころはしっかりと店舗が入り、集客できる、飲む、買う、店がありましたが、今はほとんどの店が無くなってしまいました。飲食店がちょっとあるくらいです。お客さんが少なくなったなあと思うのは本店の来店客にも言えることですが、郵便局が移動してからです。郵便局が隣にあった頃は相乗効果で非常にお客さんがいました。金融機関としてライバルでありながらお互いに共存していたのだなと。そういう共存共栄できる店舗、単独での店舗は、今後成り立たないと思います。よそのことを言っているとはいけませんが、我々の仕事としては地元が賑やかになり潤って、初めて成り立っている商売ですので、そういう意味で金融機関の立場で支援をしてきたい。貢献というと上からの立場でものを言っている気がするので、支援という、側面から行いたいと思います。こういう会議、お話があればどんどん協力していきたいと思っています。

○柴田哲治氏

人が歩いておらずにぎやかでない、ということは分かるのですが、私は青山に店を出した

り、岩滑に店を出したりしているのわかるのですが、失礼ですが半田の中で社会人が歩いている場所を私は知らないです。だけど、私どもの家の周辺、アビックスの辺りは朝夕、市役所の方、ミツカンの方が歩いています。夏にイベントを行えばそれなりに、帰りに立ち寄ってくれる。半田の中では歩いている場所だと思います。なぜなら病院も半田駅から歩ける距離にある、そういうところを生かす。例えば何か特化していく。食なら、食べるものや、持ち帰りのもの、和菓子洋菓子いろいろあると思いますが、そういったものを側面的に行政の方で考えていただければと思うのが、空き店舗や空家を壊すための誘導、地主さん大家さんを誘導するしかけを作っていただいて、一つずつ目に見えていけばこの街が駅中心にいろいろと立ち寄れる場所になると思います。青山に店を出してみても、車は通るが、歩いてのんびり見て回る人はいない。隣の店に移るのも車で移動する訳です。駅を使う高校生を家族が車で迎えにきてピューッとってしまう。人が歩いているのはこの街くらいかな、と思う。それを考えればまだやり方はあると思います。後は固定資産税が高い街ですね。それに見合った何か、還元を行政ができればいいと思います。

○京才泰直氏

私の住まいは本町ですから少し違いますが、商工会議所の立場でいうのであれば、さびれてしまったとは思いますが、非常に可能性が高いゾーンだという意識はしています。実は商工会議所の会員さんは地元の方も多のですが、転勤族の方もたくさんお見えになりますが、この地域のことを知らない方がいっぱいいます。今日、中組さんの会所でやっていますがこういう建物があることも知らないし、末広亭も知らない。いろいろ財産はいっぱいあるので当面は如何にそれを結びつけていくのかというところが一番だと思います。このゾーンも歴史と文化はここにしかないのをそれをとってしまったら、例えば知多半田駅前のようにしてしまったら、何の意味もない街になってしまうと思います。それは本当に大切にしたい。ただ、それを末広さんの力で、再度末広亭をオープンしてくれといっても、それは無理だと思います。それをどう仕掛けていくのか、どう後押しするのかということもあるだろう。例えば中組さんでも事実上難しいでしょうけれども山車を見られる期間を長くとれる支援はできないか、というように少しずつでもこの街のにぎわいを取り戻し、楽しい街だねとなれば、そこにイベントを絡ませればと思います。仕掛ければ人が集まるのは間違いないので、ただそれを続ける体力がなかなかない、というのがあるので、そこをどうバックアップするのかというところだと思います。今市内である意味一番元気な商店街が図書館前通りの商店街です。あそこは普段は人が歩いていないですが、イベントを打つともものすごく人が訪れます。ただあそこにも、それがビジネスにつながっていないという課題はありますが、人が来ないわけではなく、楽しさがあれば人は集まりますので、それをどう振り替えていけるのか。可能性は一番あると思いますが、区画整理までいうと、面整備も入ってきますので、その中でどう個性を残していくのかというのは、住民の方のご理解、ご協力がなくて難しいと思います。前に中心市街地活性化の協議会をやっていた時に話がでたのが、半田で唯一居酒屋ゾーンが作れそうなのが、このあたりの小道ではないか。今半田にはちょっとした飲み屋街がないですね。規模は大きくなって、そういうのがあるとサラリーマンの方も地域の方も楽しさがありますので、再開発をするときに考えていきたいと思っています。

○小出義一委員長

ありがとうございました。一通り意見をお聞きしました。前向きにやっていくことがあるのでは、という意見もちらほらいただきました。じゃあどうしていったらいいのかという考え方について、街づくりを突破していくうえで一つの方向を見いだせたらと思います。そういう点で皆様の中からお考えをお持ちの方がいましたら、ここからはフリーで挙手していただいて発言をしてもらいたいと思います。

○竹内元章氏

先ほども言ったようにJ R高架に基づく街づくり勉強会で当初の計画ではJ R高架の際に区画整理事業をやらないと、それはかなわないということでエリアはもっと広く運河のほうも含めていた。それを工期の短縮と予算を削る為に縮小した。その残される私たち、手つかずとなってしまった地域は、今の計画ですと名古屋銀行さんから新川通りを抜けるラインで線が引かれていると思います。そうすると名古屋銀行さんから東側、銀座本町の辺りが手つかずとなってしまい、非常に寂しい。さっき話が出た中に、知多半田区画整理で名鉄駅前道路だけができて、そこに戻ってきた人がどれだけいるかということと本当に少なくなりました。マンションができて、新しい人は増えたかもしれませんが、だけどもともと住んでいた人はどこかに行ってしまう、そのまま帰ってこないという現状も実はあると思います。J R半田駅前というのは古くから住んでいる人、先ほど高齢者が多いという意見がありましたが、区画整理をすると住む人が本当にいなくなってしまうのではないかと危惧しています。J R高架は分かりました。便利になるのでやりましょう。エリアも縮小してやりましょう。では残りのエリアは再開発しないでもいいのか、というと道路は大きくしなくても、現状プラスアルファで手を加えるだけで、先ほど竹本さんの話にもありましたが、若い人が住みやすい街づくり、そんなことができたと思います。始めにこの話ができたとときの御幸通り、新川通りの商店街をイメージして同じような感じにしてということだったと思いますが、そこからさらに踏み込んでそこに住む人、商店街の人もほとんどここに住んでいます。住人の方も一緒に考えていきたいと思います。もしできたのなら、それはすばらしい街になると思います。住民と商売をそこでやる人が一体となって一緒に考えていける街づくりであれば非常によくなるのではないかと。ただし、あくまで道路をきれいにするというやり方では無く、今あるものを使いながら、そこに住みたくなるような街づくりができたなら、というのが夢です。よく問題点として挙がるのが、地主さんが住んでいる人と違うという点です。地主さんが違うとなるとその家が空いたときに、空き地やほったらかしになってだんだん暗い街になります。商売においてもシャッターが一度閉まってしまうと、二度と開かなくなってしまう。いつの間にか更地になってそれが寂しい街になってしまう。もしできることであれば、なんとか行政から地主さんへ働きかけて、土地の利用促進を進められないかと思っています。道路云々ではなく、今ある土地を住宅、例えば若い人が住める街、商売がしやすい土地の利用、建物の利用を考えていただけないかと思っています。それから若い人が住むということで、例えばこの地域というのは、何年か前の中心市街地活性化協議会でもでしたが、名鉄があつて、J Rがあつて病院も多く、市民病院もある。市役所、郵便局もある。歩いて5分以内です。これを住みやすくない街と言えるのか。絶対住みやすい街だと思います。だからそのの

土地を促進してもらって、住宅なり商店なり、ここに住みたいくなるような街、若い人があそこなら駅も近いし、と思うような土地の利用促進が私の夢です。商店街が先か、住民が先か。と言えば絶対住む人が先だと思います。住む人を先にやり、住む人がいるなら、商売をやろう。飲食店にしても物売りにしても絶対そこでやってやろうというくらいの意気込みのある人が住んでくれば、そして商売をやってくれば一番いい街になると思います。今実際私の立場と言えば半田小学校のPTAの会長、半田中学校の少年を守る会の会長もやっています。商売だけでなく、地域のコミュニティにも参加しながらやっています。いろんなことを人と人とのふれあいが商売につながっていると痛感しました。商売だけをやっていると商売の人しか来ませんが、外へ出ていけば出ていくほどいろんな人が商売につながっていくということが良くわかりましたので、この地域がモデルではないですけれども、小さい子どもからおじいさんおばあさんまでが安心して歩いてくらせる街。そして半田だったらJR半田駅前に住もうかなと思わせるような街ができるような方策をとっていただけると助かります。

○小出建設産業委員長

先ほど内田さんから人も人が増えるような、人を増やすことも大事だとありました。今竹内さんも商店をつくるのも大切だけど、やはり住む人が増えないと何ともならない、その前提で不便なところではない。商店が減ってきているけれども便利なところも多々あるよ。というお声をいただきました。この切り口で他の方がどのように思われているのかももう少し聞いて参りたいと思います。

○内田榮一氏

ちょっとマイナスの話もしましたがけれども、今、カクサンさんがおっしゃったように人が住まないのだめだと、住むための条件づくりをして、行政の力を借りながらやらないと、なかなか民間だけではそんな大きな力を持っているところはミツカンさんくらいしかありません。その条件ですが、非常に便利であることは間違いありません。JRと名鉄があって、しかも官公庁があって、こんないいところはないです。JRが新しい車両を入れたときは名古屋まで快速で30分で行けたころがありました。今は50分もかかります。例えば名古屋に努める人でもJR半田に住もうという気にはならず、むしろ名鉄のほうへ、名鉄の半田駅のほうへ行ってしまおう。今電化で線も張っていますけれども、電化されると東海道線と同じ車両が入ってきて、スピードも上がるだろうと思いますが、今一番考えなければならぬのはダイヤです。今と同じように30分に1本程度のダイヤではダメです。最低でも20分に1本程度ないと使いにくい訳です。それをどうするかというと、私は多少鉄道マニアですから心配していることは電化されると直通が全部各駅停車の名古屋行きになってしまうのではないかとことです。そうすると時間がかかってしまいます。スピードが上がっても各駅停車だと30分か40分かかってしまいます。これを30分以内に行けるように快速を出させるといふそういう運動を市がやらなければならないと思います。僕は武豊線近代化促進同盟のメンバーとして何度もJRのみなさんと一緒に陳情に行ったりしたこともある訳ですが、その結果としてディーゼルが入った時に非常によかったなあと思っていました。だんだん無人駅になったおかげで人の乗降に手間がかかって、それでどんどん遅れていってこれではいけない

ということでスピードダウンしたわけです。だから30分が50分になってしまった。これをきちっと認識してもっと便利にしないと人が来てくれないだろうと思います。駅前の整備はそれがあってのことです。私が生きているうちにはできないと思いますが、高架になった場合に、西と東とどういうつながり方をしていって、両方で栄える街にするかということが課題になるかと思います。TMHを立ち上げたときに、私も携わっていましたが、JRの西は近代的な街づくりをしましょう。こちらは古い街並みを活かしてクラシックな街づくりをしましょう。新旧対象になるようなすばらしい街が半田にはできるのですよ、という話をした覚えがあります。そういうことを事業計画の中に取り込んだことは柴田くんも知っていると思うのですが、理想であった訳です。片方は実現しました。非常にきれいになりました。でもきれいになったけれども街としてはさびしいですね。ああいう風になってしまっただけは困る訳です。確かに名鉄のほうを作るときも横町を作りなさいよ、という話をよくしました。横町を作ってそこを飲み屋街とか飲食街にして、人がそこで集まれるようにと何遍も話がありましたが、地権者の問題でそこに飲食店を集めることはなかなか民間ではできないことでした。そういうことができるような法整備があれば別ですが、人様の土地のことに文句を言えない訳ですから、そこが一番のネックです。それを行政や議会のみなさんがどのように考えているのかを逆にこちらからお諮りをしたいと思います。

○柴田哲治様

ここに地図がありますね。この黄色く塗った部分で言えば住む人が増えればいいと思いますがここへ来る人と言えはライオンズを始めマンションが名鉄側にできました。会議所前にも分譲ができました。それで近近が流行っているかと言えは、人が歩いているかということそれは違うと思います。例えば2世、3世、飲食店でも黄色のエリアの誘導、考えていただきたいのは単なるマンションで人を増やすだけでなく、商売をする人、例えば住居付きで住んで30年くらい、責任をとる、というくらいの人。空き店舗を2・3年でテナントで店を出し、辞めて帰ってしまう通勤商売人ではなくて、そこに住み込む覚悟のある住人づくり、2階は住居にします。というような考え方でないと、単なるよその街から通勤的な商売、失敗したら出て行ってしまふよという風ではなくて、本腰をいれるような、例えば篠島や日間賀島のほうであるような漁業に就いてくれるのであれば家も船もあげます。というような誘導策が必要ではないだろうか。空き店舗などの策はありますが、悲しいかな店舗だけで、別のところから通勤している形ですから、カクサンさんの言うような地域のお祭りや小学校の行事、小学校はよその小学校に行ってしまう訳ですから。そういうどろどろの地縁があったのがこの街の良さ。私の知り得る限り、2世3世がたくさんいる。君付けで呼び合える街づくりが薄れている。それをもっと何とかできないかなと思います。

○小出義一委員長

委員の方向か発言することがありましたらお願いします。

【発言するものなし】

○小出義一委員長

では私のほうから少し、今店舗づくりとか区画整理に関連するような発言も多々ありましたが、今回区画整理の地域が縮小されて進んでいます。一応理由としては高架化を進めてい

く為に、最短でできるようにとじていますが、今まで続てきた勉強会等々、そこで積み重ねたこともあろうかと思はますので、そういう点で何かありましたらお願いします。

○中川健一委員

先ほどこちら側にどう考ているか聞いていらしたのでそれにきちと答えてから次にいかないとけないのではないでしようか。

○小出義一委員長

みなさんにお伺いしましたが、発言がなかったものですから私の質問をさせていただきます。

○中川健一委員

議会や市役所が考ていることとして、もう一度お聞かせ願えますか。

○内田榮一氏

単に高架の為だけに区画整理をするという風ではなくて、将来的な半田の街をこういう風にしたいというビジョンがあたりになるのかということだす。

○新美保博委員

今の委員長の質問は高架であろうが区画整理は手段だす。街づくりの為の手段だす。今その手段を話している訳ではなく、その前段を話していますので、ここが腹に落ちないと区画整理がいいとか、高架がいいとか判断するのはもう少しさきだと思はます。ぜひお聞きしたいのはいろいろな問題があるといはますので、何が問題なのか、地権者の問題というのはどういった問題なのか、そういったことをぜひお聞きしたいと思はたのですが。実をいうとみんながここに住んでいるわけではないので、それぞれの地域にすんでおり、地域性がありますので、違ふことがあると思はます。この地域に住んでいる人たちの街に対する思は分かりました。温度差はあるなと思はながらも気持ちは分かりました。その中でどういった問題があつて、この現状に至っているのかをもう少し詳しく教ていただけると理解が速いのかなと思はます。

○内田榮一氏

地権者の意向も大事だと思はます。ただ、権利を主張されすぎると街ができていかないだろうと思はます。計画の中でここはこういう風にするという、例えば名鉄のほうでもいろいろ考えられていました。その中に向こうは裏通りにするというすばらしい絵まで描いてありましたが、現実には何もできていない。それはなぜかという地権者の問題。でてくるような人がいなかったということだと思はます。周りがこうしたい、と決められても、実際にできるのかという疑問が我々にはあります。ですからここで区画整理をやつた場合に、ここをこういう地域にしたいからその人たちはそういう飲食店屋に土地を提供してください。その代わりに移ってください。というような手法があるのか、ないのか。どんなことをやるにしてもまずそこが問題になると思はます。

○新美保博委員

少なくとも名鉄と同じように玉突きでやるのでは 100 パーセント無理でしよう。

○内田榮一氏

こちらではそうはやってほしくない。

○新美保博委員

道路についても例えば新川通り、御幸通りを商店街だけにするという時に、そこに居住している人には申し訳ないが少し移動してもらおう。その代わり中にある商店を前に出す。そういう内田さんのようなことができるかどうか。そこは当局としてどうなの。方法としてできるのかどうか。区画整理を考えずに、街づくりとしてできるのか。要するに地権者と話をして土地を交換するようなことが可能なのかどうか。

○笠原建設部長

それはあくまで民民の話ですから可能だと思います。ただ、それは内田さんが言われたように地権者の意向であって、行政が口を出すような話ではありませんので。ただ可能だと思います。

○内田榮一氏

できるという前提があるのならば、地権者と企画をしているところの間にそうとうコミュニケーションを良くして話し合っただけでやる以外にはないわけですね。

○笠原建設部長

そうですね。地域の皆さんが協力していただいて、街づくりを考えていただいて、その中で理解を得てみなさんで考えていただいてやっていただきたい。

○中川健一委員

お答えになっているのかわかりませんが知多半田駅前の土地区画整理をやるときには当然市と地元のみなさんで話し合いをして、いろいろすすめた訳ですが問題を指摘した中で、例えば土地のインフラ整備は市がやります。その上にどういうお店を誘致するのかというときに、市役所の考えは「それは民間でやることですよ」ということで、どうも責任の範囲がお互いあいまいになって、市民のほうは市がやってくれればいいのかと、市のほうは民間がやるべきではないかという流れで結局ああいう風になってしまったというのが実態ではないかと思います。僕は、本来市がやれるのであればやらせるのは一つの方法だと思います。土地区画整理事業で税金を使ってやる場合に市が民民の土地の交換まで入って、普通の不動産業者や地上げ屋がやるような仕事までやるのは一つの方法とも思いますが、果たして行政という立場でそれがやれるのかというのも問題ではあると思います。六本木の森ビルで再開発として地上げが成功したのは、森ビルという会社が、何十年もかけて地権者と話し合いをしながら調整をして、作り上げたというのが実態です。僕はある程度地元の人たちが主体になりながら、例えば柴田さんとか、TMHに頑張ってもらって、そういう役割を担っていただきながらやらないと難しいと思いました。

○竹内元章氏

最近私くらいの年代の方から商売をやりたいのだけれども、半田のどこでやったらいいだろう、という話をよく聞きます。もちろん私もここに住んでいるわけではないけれども、業種によってはこのJR半田駅前はいいところだよ、と答え、いいところあるか。と聞かれたときに、空き店舗はたくさんあるが、その空き店舗のシャッターが開けられない。2階に先代さんが住んでいたりする。空き地空き店舗の取り組みの事業でも、場所はあるが貸せない、貸したくない、建て替えようにも建物は自分の建物だけれども、地べたは中盤産業だよ

となっている。その辺を行政が力を貸してくれてそういったものの利用の高度化、店なり住宅なりが入れる方法ができないのかなとずっと思っていました。そうしないとどんどん商売屋が減って行って、あっと思ったときには遅いと思います。今はまだやりたいと思う人がいるうちに、その方策を立てていただいて、土地の利用促進をやれたらなと思います。何人からか「やりたい」という話を聞きましたが、空き店舗はあっても紹介できないのが実際のはがゆい所です。同じ商売屋で商売をやる人が来てくれるのであればぜひやってほしいと思います。ただしそれはなかなか実現しないので行政にバックアップをしていただいて、やる気がある人にどんどん来てもらう。ついでを言えばそこに住みたいといいます。子どもを半田小学校に通わせながらやりたい。通いでやるとどうしても子どもとのふれあいは減りますので、子どもが帰ってこられる商売をやりたいという方も多くなっています。脱サラをして、という方も多いです。ぜひやる気のある方が出て来られる街づくりも考えていけたらと思います。

○新美保博委員

行政にやってほしいことは分かりました。具体的に何がやってほしいですか。

○竹内元章氏

例えばミツカンさんの土地があちこちにありますよね。なかなか個人の意見は聞いてもらえないです。ある程度まとまって、民間に出してもらえないかという交渉ですね。後は、出店するときの金銭面のバックアップですね。もちろん柴田さんがいうような条件、30年間は絶対住みながらやってください、という条件はつければ良いと思います。よくあるのは農家が嫁に来てくれるのであれば、家を建てて100万円出します、ということです。それもバックアップとして特区化ではないですが、できないかなと思います。やはり住んでいる人間であって、商売をやっている人間としては空き地ばかり、駐車場ばかりができてしまうことは本当に心配です。だんだん建物が無くなってします。今一番危惧しているのは銀座本町の角のみよし亭さんのところですが、ちょうど解体工事が始まっていますが、まさか更地になって終わりではないかと心配しています。街の顔が一つずつ消えてしまうことはこの街のさびれが一層進んでしまいますので、それを打破するような方策をと思います。

○新美保博委員

具体的な費用というのはどういうものですか。

○竹内元章氏

費用というのは、土地については交渉だけでいいと思いますが、出店するとき建物を買って、土地を買うと若い人ですと資金がそこまでない。そういう時に低利な融資、差上げます、ということが出来るかどうかです。僕らであれば自己資金でやるとは思いますが、全く新しくやりたいという場合には、そこまでできない。空き地空き店舗でも何パーセントという補助はあると思いますが、それをさらに踏み込んだ支援をしていただければと思います。

○柴田哲治氏

黒い家で黄色いエリアの人は何らかの商売をしていた建物だと思いますが、現状では閉まったままというところの地主さん、大家さんの本音を探って何が出来るか、つまりおばあさんが一人奥で住んでいるからここを手放したらもう住むところがなくなってしまう。という

ことであれば老人の施設に入居していただく、などです。あるいは先祖代々から干渉論だけで、自分の代で終わるのは嫌だという方もでてくると思います。もしかしたら、今までは誰かが住んでいる訳でもなく、税金を払っているだけだったから、儲かるのならやってほしい、という本音がでてくるかもしれません。そういったもので可能性を見つけていくために何ができるのか、本音を聞いていただければ、不動産を紹介するとかその方の意向に沿うような行政支援、サービスの情報提供もやっていただきたいと思います。私はこの街に年寄りが一人で住んでいたら怖くてしょうがないと思います。下手したらシャッターの奥で倒れてしまって、3日も4日も発見されないようなこともあります。民家ならガラス越しに風呂場の電気がつきっぱなし、ということがわかりますが、シャッターの奥に自宅があるような家が多いのでそういうことも把握しながら、街の誘導を考えていただきたいと思います。

○新美保博委員

その人たちは動いてくれますか。

○柴田哲治氏

それは条件次第だと思います。銀座本町には高齢者がいますので、その人たちに福祉などの話を持っていけば、方法論ですが。手立てとしてあなたたちの元店舗をこう活用したい。といってもいいと思います。本音の話があると思います。

○内田榮一氏

会議所では店舗もやっていますよね。京才君何か教えていただけませんか。

○京才泰直氏

ここにいらっしゃるメンバーの方もたくさん出ておられますが、今お話しされた通りだと思いますが、幸いなことに半田市はまだまだ新規開業意向のかたはいらっしゃいます。ただ規模は小さいです。飲食店、あるいはサービス業が中心です。今、ほとんどが青山地区のほうの出店が多いです。これは対象にならないですけれども、そちらのほうは物件が多いです。今、それなりに人が動いているということ。銀座本町地区、知多半田駅前地区に出たい、という話がありますが、銀座本町地区では住んでいる方が奥に見えて、貸していただけない。居住者の問題が解決しないことには貸せない。そういう部分があります。そういう方はある程度の資産を持っていますので、現状は不便を感じていない。人にものを貸してひよっとして何か問題が起こる、ということよりは現状のほうが良い、という人が多いです。会議所に来るまでも相当たくさんの民家といますか、昔お店であったところがそのままシャッターが降りているところがありますけれど、ほとんどがそういう状況です。今の提案は先々半田が、例えばその方の支援ということで3階建の住宅兼店舗を支援して1・2階が店舗を出す方の店舗と居住区として考えることができれば、土地は流動化するのではないかと思います。ただ一気にはいけないと思います。相当支援をしないと。

○新美保博委員

法的に可能だということになった時にだれがやるのか。

○京才泰直氏

全体像は行政が中心になると思いますが。

○新美保博委員

そこがまちがっているのではないか。行政になんでも任せてきたことが間違いだと僕は思います。

○京才泰直氏

個別の事業者様だけではそこまでのパワーはないと思います。

○新美保博委員

その人たちにそういう発想がなかっただけで、提案したこと訳でもないですよ。

○京才泰直氏

私たちも提案はしていません。

○新美保博委員

例えば相談には乗りますよ、相談してください、という風でこういうことをやったらどうですかとか、こういうことができますよといった話し合いはあったのですか。

○柴田哲治氏

よそ様のハード的な要素を含んだ話はないですよ。「営業時間を合わせよう」とか、「盆踊りにはこうしよう」などというソフト的な話はできても、「お宅は息子さんが帰ってこないから、人に貸したらどうだ」とは思っても言えません。それを、うちは化粧品屋をやめて、大判焼き屋やって、喫茶店をやって辿り着いた。あの町で人に貸すのはなかなか抵抗があります。人様の目もありますので。一度貸してみると家賃が入ってくるし、意外といいなと感じたことを、一つずつ言いやすいところから事例を示していくと、「3件くらい一緒にやったほうがいいのではないかと」としていかないと、「10年後テナントが出て行ったら責任とれるのか」と言われたらとれないですもんね。成功事例をだすことと、誘導しなければならないですわ。貸せば土地は残るし、税金分くらいは家賃収入が入ってきますよね。さくら堂さんの後にやみくろという居酒屋が入って、びっくりしました。物販で50年くらいやっていた店に、入ってみたら上手に階段があって、トイレもあって流行っている。それもだれかのセッティングがあったと思います。

○沢田清委員

それをコーディネートする人がいないので、さっき竹内さんが言われたように「店をやりたい」と思って意欲ある人はいる。店舗はあるがその店舗の人に話を付ける人がいない。ということですね。

○柴田哲治氏

「日本そばの店を出したい」と木造のいい雰囲気のところを探したけれど、しびれを切らして成岩で店を出した方がいました。

○沢田清委員

柴田さんが思うには、そこに住んでいるおばあさんは、交渉次第で自分が施設に住むような条件をだせば可能性があったと。

○柴田哲治氏

そうですね。その時は自分に知恵が無かったし、自分の親にもそういう経験がありませんでしたので、言えませんでした。親が経験をしてみて、こういう方法もあるんだなと思いました。

○新美保博委員

先ほど住む為の条件づくりという話で、電車の話がありましたが、それだけでしょうか。

○内田榮一氏

それは交通が便利になることも一つということです。

○新美保博委員

他にはなにがあるのでしょうか。土地の利活用も一つですよ。この地域の土地の利活用がもう少し自分たちで自由にできれば街づくりが変わった、とは言えませんが、やれそうな気がしますよね。今はそういうシステムになっていないので。

○竹内元章氏

昔は水害という話もでしたが、他には土地があっても住めるところではないということですかね。建物がぼろいということや、ミツカンさんなどがなかなか土地を手放すことはないので、そういう働きかけは民間会社では難しいので行政に入ってもらって、この特区に関しては街並みを残してほしいとか、ミツカンさんがどこかに入ってもらって、「ここは住宅」「ここは店舗」と入ってもらっていけばどんどん促進できるのではないかと思います。住みたい人、1戸建てを持ちたい人は多いので、商工会議所の前でもお店屋さんだったところが住宅になりました。自分の親が住んでいたところ、自分が駅に近い所に住みたいという人はいるはずですので、そういうところを作り出せば。

○新美保博委員

その空き地は昔プラモデル屋だったところですか。7件くらい建っていますよね。

○竹内元章氏

そうです。

○新美保博委員

ここはそういう住宅が建つのがいいのか、商店が入るといいのか。

○竹内元章氏

僕は先ほどの飲み屋横丁の話ではありませんが、小さい店でいいので入って欲しいですね。

○新美保博委員

そうすると7件の住宅は無理ですね。

○竹内元章氏

利用の方法だと思います。実際にこの地域に住みたい人は多いので、商売をしたい人もいると思います。でも建売りができてしまうと、今安いのでみなさん買っちゃいますよね。また、ちょっと離れたところがありますが、JR半田駅前はそのような開発は進まないのです。

○内田榮一氏

住宅が入ってしまうよりは、先ほどでた話のように1階を商店にしてほしいという希望があります。これはどうしようもないですがね。この地図の黄色で示しているところはこれからどうされる予定ですか。

○小出義一委員長

道路のこともありますが、ここがJR駅前を降りて景観を連続して一体とした街づくりができたらと考えたエリアです。高架化したらということもありますが、今までと道路の利用

状況が変わってくるのでそれに対して道路の利用の仕方も含めてこれからどういう街づくりをしたらいいかを考える必要があるということでそのエリアとしています。

○内田榮一氏

具体的にこの道をどうする、といったことはないですか。

○小出義一委員長

一応たたき台のようなものを話し合っ来ていますけれども、後段でご意見いただければと思います。

○柴田哲治氏

議会の建設産業委員会の方々の黄色い線ということですか。行政のほうではなく。

○新美保博委員

そうです。

○内田榮一氏

行政のほうはどのような風にお考えですか。どのような区画整理をされるのかということをお聞かせください。

○柴田哲治氏

緑は行政の行う区画整理で、黄色は建設産業委員会が街づくりを考えるモデル地区ですね。

○新美保博委員

さきほど冒頭にでていた話ですが、半田らしい街並みはどのような街並みなのかということの答えがでていないというのが正直な話です。いろんな話をする中でこういう街並みがいいよねと作り上げていくべきですが、まだ答えが出ていません。半田らしい中で、とりあえず賑わいを取り戻すには景観整備をしたほうがいいのではないかと。道路も車がびゅんびゅん走る道路ではなく、ゆったりと人が歩くことが優先で、賑わいが戻るような街にすることを考えたときに、一番とつきやすいのがパワーポイントにもありますように景観整備をすることではないかと建設産業委員会は考え方を持っていました。今日ここでお話をして景観整備だとか、区画整理はもう少し先の話であって、この街をどうするのか、商店と住民の人たちが共存共栄をしていかなければならないし、商店が先で住民が後だとか、住民が先で商店が先だとかそういったことは鶏と卵と同じことで、どちらも大事です。それが方法論として景観なのか、どういった道路がいいのか、それはもう少し先の話だったと感じています。区画整理をする緑の範囲は従来の玉突き移動方法によるやり方だと思っけれども、時間がかかるということで範囲を小さくして、道路は幹線道路にしたいと。民間に入ってもらっということは基本的には当局は思っっていないと思います。こうっ話し合っの中で、どうっ街がいい、どうっ道路がいい、といったものは逆に区画整理に影響があると思っ。このような会合がスタートとなっ、ハードとソフト一緒に考えたいと思っ。

○竹内元章氏

最初お話を受けたときは夢を話して欲しいと、この街をどうしたらいいかということをお聞かせください。区画整理は別の事業として、自分たちの思っ夢を話っ、街づくりを形成していく為の基礎としたい、という議会のお話だったと思っ。

○新美保博委員

いい話が聞けました。私たちは少しピントがずれている話をしていた。末広さんのような街並みを作って観光によってもらいたい、という意見だったがちょっと違いました。観光によってもらえるような街としていたが、全然違いました。

○竹内元章氏

メインに考えていただきたいのは住む人ですね。

○小出義一委員長

次この街づくりの話をするという段取りでしたが、今新美委員の言われるようにそうではなく、前段の部分が一番大事でもう少しその部分の話あっていく必要があるという気もしました。この黄色の部分はどうするか、よりもソフトの部分掘り下げることができたらと思います。後30分ほどしかありませんが、他に何かありませんでしょうか。

○竹内元章氏

さっき商店街がイベントをやると人は来ているという話がありましたけれども、去年の盆踊りの時にアンケートをとりました。どこら辺の人が来ているのかと思ったのですが、7割以上の方が下半田地区以外の方でした。先ほど何かやれば人が来てくれる、よく知られた場所だと思います。しかしながらやるのが中途半端。継続的にやっていくということがなかなかできない。そういった面で商店街も考え直さなければいけないのかなと思います。その中でやはり住民が楽しめなくてはならないと思います。今まで商売人は金儲けだけやっていればいいと言われていましたが、それではいけないと、住民の方と一緒にになってコミュニティを形成してどんどん街を盛り上げていく担い手としてやっていかなければならない。そういったステージを作るのが商店街の役割の一つだろうと感じるようになってきています。後はソフトの部分。例えば先ほどの土地の利活用、住む人を増やすには、商店を増やすには、イベントやるにはどうしたらいいかということも、もう少し先になると出せるのかなと思います。一つの提案としてこれは1回なのか、今後継続してやっていくのかわかりませんが、今までやってきたJR半田駅前の高架に伴う街づくり勉強会はあくまでハードの話だと思います。ではなく、もっといろんな人を巻き込んだ街づくりの勉強会が必要だと思います。もし音頭をとってくれば、市議員のみなさんがお忙しいのであればこちらだけでやって、たまに意見の交換をやる形もいいと思います。とにかくソフトを作るにあたり一回やって終わりではまったく意味がないと思います。何遍も揉んでそれを形にしていくということが必要だと思います。私も今ならやる気がありますが、これが10年も経ってしまうとだんだん下がってしまいます。街づくり勉強会のいけなかった点は70代の方だとかは自分たちがいないから、やらなくてもいい、という話も出てしまいます。それで私に代わって、やるんだったらやろう。若い人が住みやすい街、夢のある街にできるのであればやろうという話になりました。たぶんこちらが考えているのはソフトの面が多いと思います。どうしたら人が来てくれるのかな、と。ハードだけ作っても、商店街でいろんな施設、地域の視察にいきましたが、ハードができて人も歩いていない。立派なアーケードがあるけど人が歩いていないという所もたくさん見てきました。それを反面教師として自分たちのアイディアプラス行政の支援でソフトの面で街づくりをしていけばお金を掛けずにできるのではと思います。しかも明るい笑顔が子どもからお年寄りまで見られるような街づくりにできないかなと思いま

す。こういうのはどうでしょうか。

○小出義一委員長

意見を求められてしまいましたが、同感だと思っております。

○柴田哲治氏

先ほどいくつかでていまして、森ビルの話もそうだと思いますが、ある時に民民だという話をされました。だけど、学校を誘致しよう。コストコを誘致しよう。という時に民民ですよと言えば行政の職員は簡単ですが、学校とか病院を拡張するなど公共の福祉の場合に民地がいくつかあれば隣接者から行政が買収をするなど、借り上げるという方法はあると思います。ここが半田市の顔であるならば、JR半田駅を否定しなければ公共の福祉の顔だと思います。その時に民民だけでなく、誘導とか教育とか、商業地として半田市がほしいとなれば、それについて地主に理解を求めたい、ということは動いていかなければ新設学校を作ろうとしたときに、民地が絡んでいれば当然動かせるわけではないと思います。失礼ですが民間のことは民間でという風にとれたものですから、他の教育や福祉ではあるのだから、なんらかのリーダーシップはとっていただきたい。そうすると我々も半田市がいう顔づくりに乗ろう。我々についてはいいと思います。民民と切り捨てられたら大変辛いです。

○小出義一委員長

2時間を予定しておりますのであと20分くらいですが、他面に渡った意見がでましたが、同意見だということでも結構です。こういう側面からの考えが必要ですよということでもありましたら、ご発言をお願いします。

○中川健一委員

今、会長さんからソフトが重要だということはおっしゃる通りだと思います。先ほど自分の意見をもって、地元で考えなければいけないというご発言もありまして、私はごもつともだと思いました。ただ、ソフトだけではやはりまずいと思います。インフラ整備をやるかどうかは別としてやはりどのような建物をこの地域に造るかということは必ず考えなければならぬこと。例えば末広邸を壊してしまうのか、あのまま保存していくのかというのはこの地域の街づくりには非常に大切なことだと私は思います。ソフトのことも考えるけれども街並み、建築物をどう残していくのか、あるいは新しく造るのであれば街壁を統一したような雰囲気をつくるのか、そこもきちんと皆さんで話し合いをしていただきながらすすめないと、知多半田駅前のようになってしまふことは必須ですので、そこはご検討をいただけるとありがたいと、部外者として勝手な意見ですが。

○竹内元章氏

とりあえず方向性が決まればこういう街並みがいいか、と方向が決まれば手段も決まると思います。その中に中川さんのような街並み形成。実はうちはあんな感じになってしまいましたが昔は同盟書林の倉庫でした。それをああいう風にしたのですが、3、4代目の自分としては元の形にしたいなという思いがあります。せっかく蔵シックタウンという名前がこの商店街についているので、来た人にクラシックなイメージを持ってもらえるように、今ではJR半田駅前に降りたときにカラーのわからない街だと思います。それは非常におもしろくない。観光地など流行っているところでは街のカラーが決まっています。徐々にはやろうと

していますが、なかなか追い風になるものがない。例えば資金面の問題ですね。調べると10万円、20万円はできるようなものがありますが、大掛かりになると数百万かかったりもしますので、そういった支援もしていただけるようなことがあればだんだん考えてもらえるのではと思います。今ではだんだん衰退していつの間にかやめてしまっただけでそのまま空き地、空き店舗になってしまっていますので、そういったことにはしたくありません。スピーディな感覚をもって、例えば鉄道高架でも30年ではなく、10年。やるといった人がいましたよね。

○岩田玲子副委員長

私たち議会としては例えですが、もし景観重点地区だから1件あたり500万円の補助金を出すという提案を市にしたいというような考えがあります。住民のみなさんが、景観を考えておらず、揃えたいと思っていないと押しつけになってしまうので、もし街並みがそろえることが大切だとか、景観を重点的に考えたい、という方が多ければそういう提案をしたいと思います。みなさんのご意見を聞いてそれに合うような手伝いができればと思っています。

○新美保博委員

金額が500万円ということが先走るとよくないので、これは例ですが。

○小出義一委員長

街並みとか道路の使い方などハードの部分を中心に考えており、ソフトな街のつながりの部分、住む人が住みやすい街並みをつくることによって、賑わいにつなげていくご意見を聞きましたので、少し準備をしていた内容と違って、大変貴重なご意見をたくさん頂けたと思います。

○内田榮一氏

ソフトは非常に大事。同時にハードもちゃんとやっていかなければならないと思います。今お話があったように街並みをどうするかというのは、会長がおっしゃったとおり蔵シクタウンということでやっていますのでやはりクラシックとなるように、例えば私は黒塀。蔵の街だと思いますが、蔵がどんどん無くなってしまっていますが、ミツカンさんが黒っぼい会社を建てた。カラーイメージというのものも、なるべくシックな色にしてください、という申し合わせができるのかどうか。新しく家を建てるにしても近代的な家を建てたいでしょうけど、クラシックな印象の家にしていただきたい、そういう要望ができるのかどうか。ということをおもいます。なかなか地権者とか土地の問題があったり、設計家の問題もありますので、難しいなと思います。

○小出義一委員長

勝手に決めていく話ではないかもしれませんが、半田運河が景観形成重点地区となっています。すぐその隣に面しておりまして、今のお話ですと別々に考える要素は無い訳です。委員会としては景観形成重点地区を拡大して、このエリアも補助の対象となるような取り組みをしたほうがこの街づくりの活性化へいい要素となるのではと考えての提案をしたいなと思っています。

○中川健一委員

強制力まではありませんけれども、みなさんでこういう方向でやっていきたいと思いますという所まではやれますので。

○笠原建設部長

法律で縛ることもできますが、そうすると住んでいる皆さん全員の了承を得ることが必要になりますので、そうではなくて、地元の方の考えを表に出して、みなさんと協力しましょう、という形であればいいと思います。

○内田榮一氏

結局そういうことになると、リーダーシップを持った責任者が引っ張って行ってくれないとできないですね。ほんとに必死になってそういう方を説得してこういう街はみなさんの為にもなるんですよと言える人がいて、それがリーダーにならないといけないと思います。非常に手間と時間がかかるとは思います、それをやらないとだめですね。

○新美保博委員

そういう人いますか。

○内田榮一氏

この街は人材が豊富だと思っています。

○新美保博委員

この会議がそういう風になりますかね。

○内田榮一氏

それは会長に聞いてください。

○竹内元章氏

僕はこの会の会長ではありませんが。とりあえず、リーダーシップは若い人間でとらなければならないと思いますので、榮一さんや柴田さんのバックアップしていただける方が後ろ盾としていていただいて成り立つと思います。あと、この地区はまだ顔が見える地区だと思います。他のところからどんどん人が入ってきているところよりは、今のうちであれば話がしやすいのではないかと思います。話だけは聞いてくれるのかなと思います。

○内田榮一氏

まちづくり勉強会で70代前後の方が多かったという話がありましたが、僕は昔の良かったことを知っていて、だからもっと今はもっとよくできる。こうしたらどうですかというアドバイスのできる人がいると思います。そういう人をいれればいいと思います。ダメだダメだという人ばかりではうまくいくわけがありません。年齢はともかく将来の街づくりですから、若い人が主になるとは思います、そういう人の知恵も入れていかねばならないと思います。

○新美保博委員

長いこと議員をやっていると、先ほどの建設産業委員会の閉会中の調査テーマというのにはありましたが、いつもですと、よその街へ視察に行って、4月か5月に報告して終わりです。そういった視察でいいのかな、この街を良くするのにいろんな提案はできるはずだということで、今年は過去にないほど開催しています。視察も行っていません。その代わりに地場で議論をしようということです。こういう街づくりがいいね、それはもちろんハードもソフトもそうですが、自分が住む町にはどういいう街がいいか、やはり話をしなければわからないので、こういう話し合いの場はすごく大事だと思います。ずいぶん目から鱗でした。それ

だけでは済まないで、ぜひ2回、3回としていきたいというのが正直な希望です。絵に描いた餅は食べられませんので、そろそろ食べられる餅を作らなければならない。理想ばかり言っても始まらないので、そういう街を作るには何をしたらいいか。一歩前へでることができないかなと思います。ぜひともみなさん一緒にそういうものを作り上げたい。一緒に作り上げた計画は誰がやってもいいんです。行政が作った計画ではあなたたちが勝手にやったと言い出すし、責任転嫁をしてしまうといけません。みんなでこういう街づくりをしようと言ったときに、私はこれをやるよと一歩進めると思う。なかなか一歩が踏み出せないのが現状だと思いますのでぜひともそういう形でスタートできる会に育てていきたいのが肝です。委員会が変わるとしてもこれは続けられるようにしたい。できればモデル地区で。半田もいろいろな地区がありますが、できるところがないんです。うまい餅が食べたいと個人的に思います。

○内田榮一氏

先生方からも一言ずついただければと思います。

○榊原伸行委員

私も以前成岩駅西の開発に携わらせていただきましたけれども、地元の方たちと手を取りながら、視察するなど一生懸命半年間やった覚えがあります。やっぱり最初に住んでいる人たちと懇談会を設けるところがスタートだなと思います。今後ともお願いいたします。また実現可能にしていきたいと思います。

○沢田清委員

私は青山駅の近くに住んでいるものですが、先ほど柴田さんが言われたように、青山は店が多く流行っていると言われますが、歩いている人が少ないということを知りかされまして、確かにそうだなと思いました。持続性のある街にしたいということと、僕は飲む、打つ、使う。飲む場所がないと人は集まらない。もともと赤ちょうちん派です。西川があった時におじいちゃんおばあちゃんに連れてきてもらった記憶がある。半田というと駅。だからこの周辺をモデル地区にという案に大賛成をしました。細い路地に赤ちょうちん、それを実現するには地の人の意見を聞かなければならない、ということで僕も続けていきたいと思います。今後ともよろしくお願いいたします。

○鈴木好美委員

私は住んでいるところが土井山とあって、こことは違いラーメン屋、服屋とお店が並んでいるところです。先ほど新美委員が言われましたように地元の方と話し合いをし、ハードやソフト面も聞いて行かないとわからない。僕もまだ半田に来て18年ですが、僕が小さいころ柴田の長屋に住んでいたのですが、当時40年くらい前は名鉄半田駅に来れば映画館もあり、ちょっとしたスナックもあり、柴田よりも半田というイメージがありました。でも今、このように変わりましたが、やはりここはみんなで考えながら、毎回話し合いをしていいものにしていきたいなと思っています。長く続けていければと思います。よろしく申し上げます。

○岩田玲子副委員長

私はこの周辺の街が良くなって、住む人にとっても良い、活気のある今の街をもう一回作

り上げることができたら素敵だなと思います。どういう街にしていったらいいのか、という夢がある人が語りながら作っていきけるのが一番だと思います。夢というのは語らないと実現しませんので、こういった風にしたらどうかというのは叶わないのではないかと思っても、言うことによって実現していくものだと思いますのでいろんな思いはありますが、そういったことを口にしながらいい街にしたいと思います。

○小出義一委員長

長時間ありがとうございました。大変熱心に貴重なご意見をいただきました。2時間という時間でどういう風に展開するか想像が付きませんでした。少し我々の思っていた所と違う所へ行ったかなと思いましたが、それはそれで良かったと思います。特に商店だけが街づくりを中心に担っていくわけではなく、住民と一緒にやっていくことが本当の賑わいというご意見を出していただいたのが印象的でした。また、それを作っていくために地元のコミュニティがさらに形成が深まっていかなければならない。その為には街づくり勉強会のように持続しながら気運を醸成していきけるようなものになればいいと思います。今回の懇談会を一回で終わらずに起点として街づくり、発展に関わっていきけるようにしていきたいと思います。また委員会のメンバーと話し合っていていきけるようにしたいと思います。今日は本当にありがとうございました。必ずこの懇談会の成果を出していききたいと思います。

閉会 午後4時00分